

情報収集を目的としたまちづくりワークショップの評価に関する一考察

A STUDY ON EVALUATION OF WORKSHOP FOR GATHERING INFORMATION FOR TOWN PLANNING

花岡 史恵* 澤田 俊明* 山中 英生** 山下 昌稔***
Fumie HANAOKA* Toshiaki SAWADA* Hideo YAMANAKA** Masatoshi YAMASHITA***

ABSTRACT; In order to gather information for town planning, we can use questionnaires, hearings, workshops, etc. In this particular study, we have examined the workshop for gathering information which was introduced into the Master Plan in Ikeda town, Tokushima. After examining each aspect of the workshop for gathering information, we recommend four items to evaluate the success of it; ownership of information, quality and quantity of information, direct reflection of information and indirect reflection of information.

KEYWORDS; Workshop, Town Master Plan, Public Involvement

1. はじめに

平成4年の都市計画改正法に伴い、徳島県池田町では、平成6年度から平成8年度にかけて市町村マスタープラン¹⁾が策定された。池田町市町村マスタープラン策定では、プラン策定のために、徳島県関係者や地元諸団体の代表から構成される策定委員会や町役場内の関係部署の責任者から構成される幹事会が組織された。そして、住民参加を得る手だてとして、アンケート、ワークショップ（以下WSと略記）が実施された。ワークショップ手法は、協議会形式やアンケート調査とは異なり、参加者が一同に集い、双方向に多数の意見収集を行うことが可能な、「住民の話し合いの場」としての役割を担っている。本論文では、池田ワークショップでの経験を踏まえながら、情報収集のためのまちづくりワークショップの問題点と課題について考察する。

2. 池田ワークショップの概要

2. 1 池田町の概要

徳島県池田町は、人口1万8千人の小都市であるが、四国の中央に位置しており、徳島県西の中核拠点として第三次産業が発達し、また豊富な農産物や森林資源を活かした煙草、味噌醤油、日本酒、製材業等の地場産業も盛んな町である。深い峡谷を流れる吉野川が北流から東流に90度曲がり、池田町から徳島市に至る、徳島平野の起点となる町である。また古くから四国四県に通じる中間地点として街道沿いに町が形成されてきた。

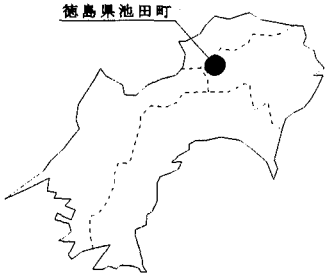
* 建設材料試験所 Kensetsu Zairyo Shiken-syo

** 徳島大学工学部 The University of Tokushima

*** 池田町役場 Ikeda Town Office

表－1 池田町の概要（平成9年3月現在）

面 積	168 km2
人口	男性8,579人
・世帯	女性9,714人
	計 18,293人 6,749世帯
高齢化率	27.9%（全人口に対する 65歳以上人口の割合）
土地利用	林野82.2% 可住地17.8% （耕地3.6%）



図－1 池田町の位置

2. 2 池田ワークショップの経緯

池田町では、平成5年度の準備を経て、平成6年度より池田都市マスタープラン策定に着手し、平成6年度には市町村マスタープラン策定委員会の開催及び住民アンケートが実施された。そして池田町市町村マスタープラン策定において、住民参加とその意見を計画に反映する目的で、平成7、8年度には、官民一体となった住民ワークショップ（以下、池田WSと略記）が実施された。このように、まちづくりWSはその準備を含めた活動全体が意味をもっているが、本研究では特に住民の直接参加した会合をリアルタイムワークショップ（以下RWSと略記）と呼んでいる。池田WSの経緯を図－2に示す。

2. 3 池田ワークショップの組織

池田WSの参加者は、池田まちづくり会議の会員を主とした住民と池田町役場の各課有志による官民一体となったメンバー28名と、役場担当者・コンサルタント合同のスタッフ10名により構成された。池田まちづくり会議は、図－2で示したとおり、平成4年度に池田町で策定された池田町地域住宅計画（HOPE計画）の具体的推進を図るための住民参加施策の一つとして、平成6年度に行政の呼びかけにより結成された池田町住民による、まちづくりグループである。池田WSのメンバー構成を表－2に示し、池田まちづくり会議の概要²⁾を表－3に示す。

平成4年 8月	○池田町地域住宅計画（HOPE計画）着手
10月	○池田町地域住宅計画策定委員会 幹事会発足
	○池田町地域住宅計画策定委員会発足
平成5年12月	●池田町都市マスタープラン策定着手
平成6年 4月	○池田まちづくり会議発足
6月	●池田都市計画幹事会発足
	●池田都市マスタープラン策定委員会発足
平成6年11月	●池田町住民アンケート実施
平成7年11月	●第1回池田RWS実施
平成8年 1月	●第2回池田RWS実施
平成8年 3月	●第3回池田RWS実施
平成8年 6月	●第4回池田RWS実施

図－2 池田WSの経緯

表－2 池田ワークショップのメンバー構成

池田町住民	性 別	男86% 女14%
	年 齢	20代 7% 30代25% 40代29% 50代14% 60代25%
	職 業	建設業18% 製造業4% 不動産業4% 卸売・小売・飲食業28% サービス業7% 公務員25% 専業主婦7% その他7%
	摘 要	まちづくり会議メンバー64%
スタッフ	性 別	男70% 女30%
	年 齢	20代 20% 30代 30% 40代 30% 50代 20%
	職 業	行政 50% コンサルタント 50%

表－3 池田まちづくり会議概要

運営形態	内 容	参加者
全体会議	HOPE計画の具体的提案のための部会活動の推進と部会活動報告の場	男39名 女 8名
住宅部会	HOPE計画に関連した住宅調査研究や講演会等	男11名 女 3名
環境部会	リサイクルを中心とした環境調査研究や講演会等	男11名 女 3名
交通部会	道路交通に焦点をあてた調査研究や講演会・視察等	男12名 女 0名
産業部会	観光に焦点をあてた調査研究や観光マップの作成等	男11名 女 2名

2. 4 池田リアルタイムワークショップのプログラム

平成7、8年の2ヶ年に渡り、計4回のリアルタイムワークショップ（RWS）が開催された。そのRWSの概要を表－4に示す。

表－4 池田RWSのプログラム

RWS	日 時	場 所	参加者	テーマ	プログラム概要	木下によるWSスコア ³⁾
第1回	平成7年 11月15日 15:00 ～17:30	池田町 総合体育館	住民 22名 スタッフ 9名	池田町の将来像を 考えよう	・池田町の良いところ・悪いところ ・こんな池田町にしたいな ・グループで話し合おう ・住民参加についてグループで考えよう ・グループ発表	KJ法
第2回	平成8年 1月24日 18:30 ～21:00	池田町 総合体育館	住民 15名 スタッフ 8名	池田町の防災に ついて考えよう	・話題提供「阪神淡路大震災に学ぶ」 ・池田町の防災を考える ・グループで話し合おう ・具体的提案を考える ・グループ発表	KJ法
第3回	平成8年 3月19日 18:00 ～21:00	池田町役場 第1会議室	住民 8名 スタッフ 7名	池田町の交流に ついて考えよう	・話題提供「マシナリ地域代へ越境する時代」 ・身近な交流について考える ・充実した交流活動に必要なものを考える ・グループで話し合おう ・グループ発表	KJ法
第4回	平成8年 6月5日 18:30 ～21:00	池田町 総合体育館	住民 9名 スタッフ 7名	池田駅周辺の 将来像について 考えよう	・池田駅周辺の将来像の基本案の提案 ・基本案について考えよう ・グループで考えよう ・グループ発表	KJ法

2. 5 池田ワークショップでの参加者の意見

第1～4回池田WSでの意見のまとめを表－5に示す。

第1回RWSでは、池田町の将来像をテーマに、池田町の良いところ、悪いところを抽出し、それを基に池田町の望ましい将来像についての意見交換が行われた。意見の特徴としては、自然環境を活かしつつ住環境に重点を置いた社会基盤整備に関する参加者の意識の高さがうかがえた。

第2回WSでは、池田町の防災をテーマとし、阪神淡路大震災の教訓を基に、池田町の防災の良いところ、悪いところを抽出し、防災上の留意点と具体的提案についての意見交換が行われた。意見の特徴として、吉野川の水や森林などの自然条件の活用に加えて、地域コミュニティの活用に対する意見が多く出された。地方ならではの地域住民の結びつきの強さが第2回RWSの意見に現れていることがわかる。

第3回WSでは、池田町の交流をテーマに、池田町の身近な交流とそれを阻害する要因を抽出し、交流活動に必要なものについての意見交換が行われた。意見の特徴として、ハード面やソフト面での整備の他に、住民参加に対する意見が多く、人材の育成を含め住民の意識の高揚を促すためのシステムづくりに関心が高いことがうかがえた。

第4回WSでは、池田駅周辺の将来像をテーマに、基本案や具体的提案についての意見交換が行われた。意見の特徴として、徳島県西地域の中核拠点のみにとどまらず「四国の池田」としての発展を望む意見が多く、駅前の再開発に対する意識が高いことがうかがえた。

表－５ 池田WS意見のまとめ

池田WS	プログラム	池田WS意見の特徴
第1回	池田町の良いところ 池田町の悪いところ 池田町の将来像 住民参加	・自然、水、生物に関するものが多い ・面積を持つ場としての認識 ・中心部には少ない ・市街地中心部に対するものが多い ・道路、下水道など日常生活に関連する社会資本及びそれが未整備な地区 ・住環境が向上したまち ・自然と住民にやさしいまち ・地理的条件が活かされたまち ・楽しみが創出できるまち（文化歴史スポーツなど） ・住民参加の多様性（参加者、形態等） ・住民参加情報の周知、伝達 ・歴史的、文化的香りのあるもの ・生活に寄与するもの ・人工的でも長い時間の間変わらないもの ・雇用、福祉 ・福祉が充実したまち ・都市基盤が整備されたまち ・若者の定着するまち ・住民参加の継続性
第2回	池田町の防災 （良いところ） 池田町の防災 （悪いところ） 防災上の留意点 防災の具体提案	・自然は災害に強い ・水資源が豊富 ・地域の結びつきが強く災害時の助け合いが可能 ・中央構造線をはじめとした活断層 ・市街地は火災に弱い ・道路狹隘のため救急車両の進入や消火活動の困難 ・大雨による土砂災害 ・避難場所の数や広さの不足 ・災害情報や連絡体制 ・自然を利用した防災 ・住民による防災組織 ・災害時の緊急活動が円滑に行える社会基盤整備 ・小規模自立型のライフラインは災害に強い ・防災についての話し合いの場がある ・防災設備が脆弱である ・防災訓練の欠如など防災意識が低い ・消防団の高年齢化 ・市街地での火災 ・防災訓練が必要 ・情報伝達における多様なシステムの活用 ・災害対策マニュアルの作成
第3回	池田町の身近な交流 身近な交流の阻害要因 交流活動に必要なもの	・イベント、祭り ・四国レベルでのスポーツ交流 ・交流施設の種類、数、規模、質 ・スポーツ交流施設の不足 ・気軽に利用できる身近な施設の不足 ・人材の育成 ・夢のある町民 ・遊休地の利用 ・四国規模の施設 ・趣味を通じた交流 ・各種セミナー ・イベントのマンネリ化 ・運営手段 ・文化的な施設 ・交通アクセス ・施設の質の向上 ・福祉、雇用 ・住民参加を具体化するシステム ・自発的な住民活動
第4回	池田駅周辺の将来像 （基本案） 実現してほしいこと	・道路整備の充実（交通の円滑化） ・土地の有効利用（駅前の高層化） ・池田～川之江間の鉄道建設 ・本町通りの活性化 ・国の出先機関の集約 ・文化、教育、企業の拠点としての整備 ・防災機能を備えた公園の整備 ・環境に与える影響の少ない整備 ・四国の池田としての発展

３．情報収集のためのワークショップ

３．１ 情報収集手法による比較

情報収集の手法には、アンケート・ヒアリング・情報収集のWS、さらにはインターネットによる電子会議などがあり、これら各手法を表－６に示す。ここで、情報収集WSとは、ハード整備・ソフト整備双方において、WS開催の目的が情報の収集であるWSであり、WS開催の最終目標が具体的な施設整備のためのものづくりWSとは異なった特徴をもつと考えている。表－６より、アンケートは多数の個人による異なる時・異なる場所での単方向の意見、ヒアリングは少数の個人による異なる時・異なる場所での双方向の意見、情報収集のWSは少数の集団による同時・同場所での双方向の議論、インターネットは多数の集団による異なる時・異なる場所での双方向の議論による情報を得ることができるものといえる。

情報収集のWSは、少人数の集団による同時・同場所性の議論により、情報提供者間での情報の双方向性、情報の共有化、情報の発展性に有利である情報収集の手法であり、また、議論の場の同時・同場所性は、参

加者相互のコミュニケーションの場としての役割を有しているといえる。

表－6 情報収集の手法の特徴の比較

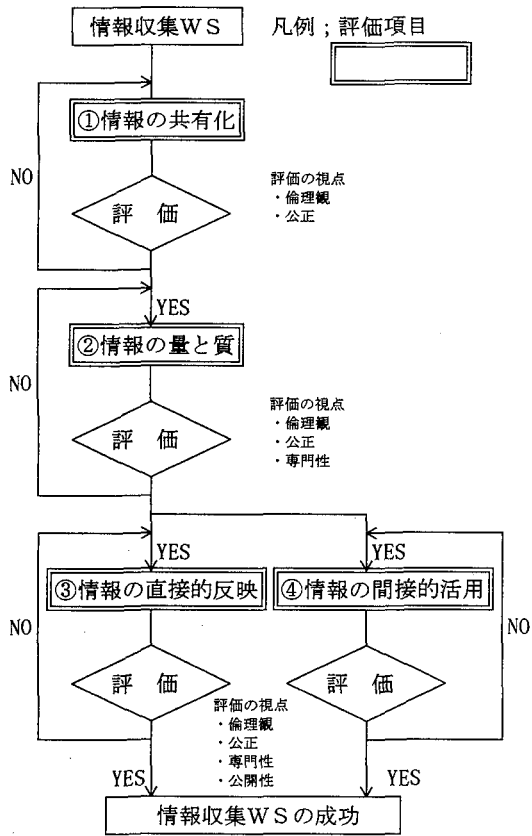
情報収集の手法		アンケート	ヒアリング	情報収集のWS	インターネットによる電子会議
情報の伝達	経路	単方向	双方向	双方向	双方向
	時間	タイムラグがある	リアルタイム	リアルタイム	タイムラグがある
	場	異なる場所	ヒアリング時は同場所 対象者は異なる場所	同じ場所	異なる場所
	対象	多数の個人	少数の個人	少数の集団	多数の集団
情報の共有化		困難	困難	期待できる	期待できる
情報の発展性		小	やや期待できる	期待できる	かなり期待できる

3. 2 情報収集ワークショップの評価項目

情報収集WSの成功とはどういうことなのかまたどのような結果が得られれば成功といえるのかについて考察する。ここでは、成功の要件として以下の4つの評価項目を仮定した。

- ①情報の共有化
・・・参加者がWSに参加して充実した共有感が得られること。
- ②情報の量と質
・・・より多くの良い情報を収集すること。
- ③情報の直接的反映
・・・収集された情報がWSを開催した目的のための計画に反映されること。
- ④情報の間接的活用
・・・収集された情報がWSを開催した目的のための計画の反映のみで終わらず、関連計画やそれ以外の諸計画等にも活用されること。

情報収集WSの成功のための評価項目とそのフロー図を図－3に示す。



図－3 情報収集WSの成功のための評価項目とフロー図

3. 3 情報収集ワークショップの評価について

情報収集WSの評価項目として、情報の共有化、情報の量と質・情報の直接的反映・情報の間接的活用の4項目をあげたが、これらの評価は、以下の点に留意する必要がある。

情報の共有化の評価においては、倫理観のある共有化になっているか、偏りのない公正な共有化になって

いるかという視点に立つての評価が必要であると思われる。情報の量と質の評価においても同様に、倫理観の上に成り立った公正なものであるかという点と、さらに専門的見解から見て妥当であるかという視点が必要であると思われる。情報の直接的反映、情報の間接的活用の評価においては、倫理観・公正・専門性に加えて、公開性の視点が必要となってくる。情報がどのような経緯を経て反映・活用されたのかを当事者のみでなく、地域住民をはじめとする一般市民が、いつでも情報を知ることのできる情報公開のシステム化が必要であると思われる。身近な情報公開の手段として、各種広報の利用やインターネットのホームページ開設等が考えられる。

上記に示した評価の視点に立つて、情報収集WSの成功のための評価指標シート（案）を表－7に示す。表－7では、A、B、Cの3ランクに区分しているが、今後、ランク分けの判別根拠の検討等が必要である。また、評価の視点、評価指標等の作成に加えて、重要なのが評価を行う人の選出である。評価の視点と同様に倫理観があり、公正な判断と専門性を兼ね備えた中立的立場の人を選出する必要がある。情報の公開性と併せて、選出された人の人柄・専門性・公的立場等を公開するシステム作りも必要である。

表－7 評価指標シート（案）

項目 視点		評価		
		A	B	C
情報の共有化	倫理観	高い	普通	低い
	公正	高い	普通	低い
情報の量と質	倫理観	高い	普通	低い
	公正	高い	普通	低い
	専門性	高い	普通	低い
情報の直接的反映	倫理観	高い	普通	低い
	公正	高い	普通	低い
	専門性	高い	普通	低い
	公開性	高い	普通	低い
情報の間接的活用	倫理観	高い	普通	低い
	公正	高い	普通	低い
	専門性	高い	普通	低い
	公開性	高い	普通	低い

※高評価(A) 普通評価(B) 低評価(C)に区分

表－8 池田WSの評価指標シート

項目 視点		評価		
		A	B	C
情報の共有化	倫理観	高い	普通	低い
	公正	高い	普通	低い
情報の量と質	倫理観	高い	普通	低い
	公正	高い	普通	低い
	専門性	高い	普通	低い
情報の直接的反映	倫理観	高い	普通	低い
	公正	高い	普通	低い
	専門性	高い	普通	低い
	公開性	高い	普通	低い
情報の間接的活用	倫理観	高い	普通	低い
	公正	高い	普通	低い
	専門性	高い	普通	低い
	公開性	高い	普通	低い

※高評価(A) 普通評価(B) 低評価(C)に区分

3. 4 池田ワークショップの評価

情報収集WS成功のための4つの評価項目について、池田WSを評価する。

池田WSの評価指標シートを表－8に示す。

①情報の共有化

1～4回のWS開催後に、参加者に対して池田WSに参加した感想等の簡単なアンケート調査を実施した。調査結果を表－9に示す。表－9より、参加者のWSに対する理解度と充実度の高さが得られた。これにより、情報の共有化については、高評価が得られるものと思われる。

②情報の量と質

情報の量と質については、前出の表－5 池田WS意見のまとめで示したとおり、倫理観・専門性の視点からは高評価が得られるものと思われるが、参加者に年齢的な偏りがあり若者や子供の意見が欠如している点で公正さには高評価が得られにくい。

③情報の直接的反映

情報の直接的反映については、収集された情報が都市マスタープラン計画における基本計画、整備計画の策定に直接反映された点において、倫理観・公正・専門性の視点からは高評価が得られるものと思われるが、公開性について、現段階では高評価は得られにくいと思われる。

④情報の間接的活用

情報の間接的活用については、現段階では活用されていないが、今後の適正な活用のために、今回の池田WSでの情報の公開と、適正な評価が得られるためのシステムの確立が必要である。

また、今回の池田WSにおける情報の評価は、各段階において、WSを担当した行政担当者とコンサルタントから構成されたスタッフによる判断のみで評価されており、情報そのものをWS参加者以外に公開されことなく直接計画に反映された形となっている。今後の適正な情報の活用にあたっては、評価する人の選出を含めた評価システムの確立が望まれる。

表－9 池田WS参加者アンケート調査結果（人数はアンケート回答者数を示す）

回答 アンケート項目	第1回RWS			第2回RWS			第3回RWS			第4回RWS		
	人数	思う	少し思う	人数	思う	少し思う	人数	思う	少し思う	人数	思う	少し思う
WSは楽しかったか	25名	48%	48%	20名	60%	35%	12名	42%	42%	14名	50%	43%
WSはイメージどおりか	25名	48%	32%	20名	35%	50%	12名	17%	58%	13名	8%	54%
日頃考えていたことがWSで検討されたか	25名	48%	36%	20名	40%	55%	13名	38%	54%	14名	21%	36%
WSに参加してまちづくりに参加しようと思うか	24名	71%	25%	20名	50%	40%	12名	67%	25%	14名	64%	36%
生活経験はWSに役だったか	24名	33%	50%	20名	25%	40%	12名	33%	58%	13名	15%	85%
WSは生活経験に有意義か	24名	29%	54%	20名	65%	20%	13名	46%	54%	13名	8%	77%
仕事はWSに役だったか	25名	28%	36%	19名	42%	32%	12名	42%	58%	13名	23%	62%
WSは仕事に有意義か	25名	32%	40%	19名	53%	37%	12名	33%	58%	13名	38%	46%
住民参加にWSは有意義か	25名	84%	12%	20名	60%	35%	13名	62%	38%	14名	43%	43%
次のWSに参加するか	25名	80%	20%	20名	80%	20%	12名	75%	25%	—	—	—

4. おわりに

本研究では、まちづくりににおける情報収集の手法としてのWSに焦点をあて、池田WSでの経験を踏まえて、情報収集WSの特徴を考察するとともに、情報収集WSの成功のための評価項目を示した。以下にその内容をまとめる。

1) 情報収集WSの特徴

情報収集WSの特徴として以下の4点があげられる。

- ①情報の双方向性……アンケート調査等のように一方的な質問や質問に対する回答のみで終わることなく自分の意見と他人の意見の共通点や相違点を相互に知ることができる。
- ②情報の共有化……参加者が一同に集うことにより、場所、時間、話題に対して共有化が図れる。
- ③情報の発展性……アンケート調査等と違い、関心の高い問題に対して深く掘り下げた意見交換が行えることにより、新しい発想や発展等に結びつく可能性が高い。
- ④交流の場……立場を越えて、問題提起に対して「個人で考える場」と「グループで話し合う場」が与えられ、WSそのものが「人づくりの場」として存在する。

2) 情報収集WSの成功のための評価項目

情報収集WSの成功のための評価項目として以下の4点が考えられる。

- ①情報の共有化……参加者がWSに参加して充実した共有感が得られること。
- ②情報の量と質……より多くの良い情報を収集すること。
- ③情報の直接的反映…収集された情報がWSを開催した目的のための計画に反映されること
- ④情報の間接的活用…収集された情報がWSを開催した目的のための計画の反映のみで終わらず、関連計画やそれ以外の諸計画等にも活用されること。

以上の評価項目により、池田WSを評価した結果、情報の共有化や情報の量と質における倫理観や専門性、また情報の直接的反映における倫理観や専門性では高い評価が得られるが、情報の量と質における公正さ及び情報の直接的反映や情報の間接的活用における公開性等に弱点があることが解った。

まちづくりWSの主役は参加者を代表とした地域住民であり、最終評価を下すのも地域住民でなければならないと思う。地域に根ざした住み良さを地域住民一人一人が自分たちの手で築くために、また地域が地域として輝き、生き残っていくために、住民・行政・専門家等の枠をはずし、共に学んで、歩んでいかなければならない時代がきている。池田WSにおいては、参加住民の半数以上が、池田HOPE計画を土台とした「まちづくり会議」の発足運営の関係者であった。これは、今回の池田WSが開催できる土壌としての歴史的背景を池田町が持っていたことを意味する。

今後の研究の方向として、情報収集WSにおける評価システムの確立に関する研究を継続するとともに、本文中で比較を行ったアンケート・ヒアリング・情報収集WS・インターネットによる電子会議の4つの情報収集手法を今後のまちづくりにおける情報収集において、どのように関わりを持ち発展することが有効なのかについても研究を進めて行きたいと思う。

謝辞：本研究の遂行にあたり、池田町建設課、池田WS参加者の方々のご協力をいただきましたこと、ここに謹んで感謝の意を表します。

参考文献

-
- 1)徳島県池田町：都市マスタープラン計画書、平成8年3月
 - 2)池田まちづくり会議、池田町：池田まちづくり会議活動記録集（I）、平成8年3月
 - 3)木下勇：ワークショップによる市民まちづくりの展開、都市計画No194 1995 p.40-41